

# 京都「被爆二世・三世の会」会報

京都市中京区壬生仙念町30-2  
ラポール京都5階  
京都原水爆被災者懇談会気付  
TEL 075-811-3203  
FAX 075-811-3213  
HP <http://aogiri2-3.jp>

Kyoto Association of 2nd & 3rd Generation Hibakusha(Atomic Bomb Survivors)



3月1日ビキニデー集会／久保山愛吉さん墓前行進（焼津市）

京都「被爆二世・三世の会」2024年度年次総会と記念講演のお知らせ	2
『被爆二世・三世健康調査アンケート結果報告書』の普及運動をすすめましょう	3
被災70年の3・1ビキニデーから原爆投下80年の2024年に向けて 3・1ビキニデー参加者レポート 平信行／井坂博文／米重俊夫／庄田政江	4
映画『オープンハイマー』に見る加害と被害 宮本ゆき	7
2024年度年会費お支払いのお願い	10
会員から会員へ みなさんからのお便り紹介	11
本・DVD・映画・番組の紹介と交流 「東京電力の変節—最高裁・司法エリートとの癒着と原発被災者攻撃」	12
SCRAPBOOK 「世界遺産に値する原水爆禁止署名」(原水協通信) 「核禁条約 補償への基盤 ビキニ水爆被災70年 米南部で会議(赤旗) 「国連安全保障理事会 外相、核禁条約に触れず」	21
編集後記	15
2024年4月行事カレンダー	16

京都「被爆二世・三世の会」2024年度年次総会 記念講演(オープン企画)

「原爆ぶらぶら病」と『能力減退症』  
 =被爆者と『新ヒバクシャ』その類似性、共通性  
 — 被爆・被曝の新しい理解・病悩の解決の可能性



講師 **三田 茂** 医師(岡山三田医院)

日時 2024年5月12日(日)

午後2時30分～4時30分

会場 ラポール京都・第12会議室

& オンライン(ZOOM)で視聴

無料

京都「被爆二世・三世の会」は2020年から被爆二世・三世を対象にした健康調査アンケート(2回目)を進めてきました。すでに二世だけで100人以上の回答を得て、この春「アンケート結果報告書」をまとめました。

このアンケートを進める際に助言をいただいた三田茂医師に送付しました。

三田茂医師は東京都小平市で内科医院を営まれていたときに福島原発事故に遭遇、ただちに東京の子どもたちの被曝影響を調べ始められた医師です。

やがて福島原発事故で被曝した方を『新ヒバクシャ』と命名、そこで起きていることを『能力減退症』と定義しつつ、その治療法も見い出し、たくさんの『新ヒバクシャ』を救ってこられています。その三田医師が私たちの報告書を読んでこう語られました。「『新ヒバクシャ』との類似性、共通性に驚いた」「かなりの高率で治療できる、症状を軽くできるという確信を得た……」。

そこで今回、三田医師を総会にお呼びし、これらの点や被爆・被曝に関する新しい理解と、この苦しみの解決の可能性についてお話しいただくことにしました。

ご講演から、みなさんとともに、被爆・被曝の苦しみを力強く越えていく可能性をつかめればと思います。ぜひご参加下さい。

参加申し込み QR コード

- 会場(ラポール京都)へのアクセス
- オンライン(ZOOM)の参加お申し込みはこちらから →



■当日は同会場で13時30分から京都「被爆二世・三世の会」年次総会をオープン開催します。会員外の方も参加できます。お時間のある方はこちらにも是非ご参加下さい。



京都「被爆二世・三世の会」 <http://aogiri2-3.jp>

連絡先(京都原水協気付) 電話075-811-3203 FAX075-811-3213



## 『被爆二世・三世健康調査アンケート結果報告書』

### の普及運動をすすめましょう！

■100人を超えるみなさんから回答の協力をいただいたアンケート活動。ことし1月にその結果をまとめ、2月7日、報告書の形で発表してきました。アンケート結果は多くの方にお届けし、お知らせしてこそ値打ちの出るものです。

■これまでに以下の皆さん約300人に報告書をお届けしてきました。

	電子版	冊子版	合計
① アンケート回答者へのお届け（お礼を兼ねて）		36	36
② 「二世・三世の会」会員	84	54	138
③ 会員以外で毎月会報をお届けしている人	55	25	80
④ 3・1ピクニック集会分科会で配布	50		50
合 計	189	115	304

#### ■早速、『報告書』を読んだ感想、ご意見を寄せていただいています。

- ▲ 証言の数の多さにびっくりしました。これをまとめられるのは本当に大変だったろうと思いつながりながら読んでいました。  
読んでいるうちに他の方と同じくしている感覚に。まとめてくださって本当にありがとうございます。（O・Mさん）
- ▲ 被爆二世三世の会のアンケート結果の冊子、郵送ありがとうございます！！  
高熱で9日間寝込んでいてお礼のご連絡、遅くなってしまいました。ほぼ回復しました！  
あの冊子は私にとって 御守りです。  
社会や被爆の影響を知らない人たちに被爆遺伝子をもつ人の苦勞や実情を分かりやすく説明してくれる心強い冊子です。  
被爆遺伝子を持つ人間の今の生の声を知ることができる奇跡に感動しています。  
本当に恵まれた状況へのお導きに感謝しています。ありがとうございます！  
思うように身体が動かないことが 自分だけのせいでは無いということアンケートを通して守田さんとお話できたことで 自分自身の肉体について深い理解を得られたことは人生を変えてくれました。  
あの冊子を被爆三世の親友にぜひ送りたいのですが1部、購入はできますか？おいくらになりますか？長崎被爆三世の親友は女性で私と同年。散々身体で苦勞し、生活に苦勞しつつもサヴァイブしている大切な大切な友人で、ぜひ彼女にも読んでもらえたら、と思いました！（U・Mさん）

# 被災70年の3・1ビキニデーから 原爆投下80年の2024年に向けて

## 3・1ビキニデー参加者レポート

### ■原水禁運動の原点を振り返った今年のビキニデー集会

平 信行（南区）



今年の3・1ビキニデーは被災70年の節目でのとりくみでした。

2月28日（水）にはビキニ被災70年シンポジウムが開催され、29日（木）には原水協集会と7つの分科会、3月1日（金）には久保山愛吉さんのお墓への墓参行進と墓前集会、3・1ビキニデー集会が行われました。

70年前の3月1日、マーシャル諸島・ビキニ環礁において、アメリカの水爆実験が行われ、第五福竜丸を含む1000隻以上のマグロ漁船が被災しました。この事実がマスコミによって暴露され、日本に帰港した漁船の放射能検査とマグロの投廃棄・処分の事態を招き、放射能汚染の不安と恐怖が全国にもたらされました。「核実験は禁止せよ！」の声が全国各地から自然発生的に沸き起こり、草の音から生まれた運動は燎原の火となって広まり、またたく間に全国に及びました。運動の中心となった署名は1954年のその年だけで3200万筆、当時の日本人口の過半数を超える規模にまで及び、文字通りの国民的運動となっていきました。

この署名運動が基礎になって、日本原水爆禁止協議会（日本原水協）が結成され、初めての原水爆禁止世界大会が開催され、さらには日本被爆者団体協議会（日本被団協）も生まれるに到りました。ビキニ環礁水爆実験を契機にした署名運動が日本の原水禁運動の原点でした。

70年前の核実験禁止・核兵器廃絶運動の原点、国民的規模に広がった一大運動をもう一度思い起こそう！あの時の経験、教訓に学んで、現在の核の危機的状況を打開していこう！被災80年となる205年に向けて世界の核廃絶運動をリードしていく日本政府を実現していこう！—これが今回の3・1ビキニデーのメインテーマでした。

2月29日に行われた分科会の一つに「ビキニ事件と原水爆禁止運動（入門編）」が設定され、あらためて多くの参加者がビキニ事件について学ぶ貴重な機会となりました。この分科会では、ビキニ水爆実験被災者たちが残したメッセージや原水爆禁止運動の原点となることや、その後の運動の記録や手記と映像を使ったワークショップなどを行い、大好評の分科会となりました。

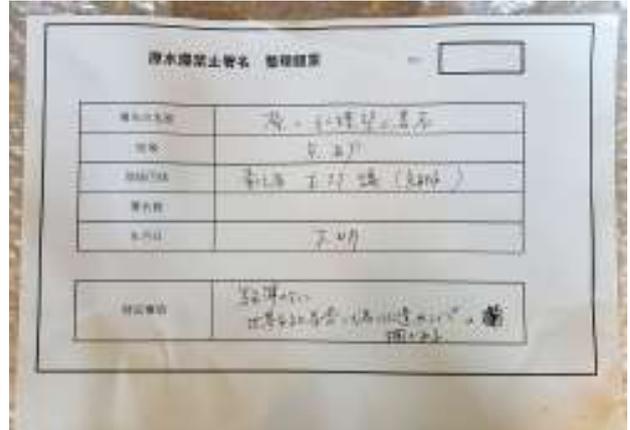
今回のビキニデーでは、この日程に合わせてマーシャル諸島の現地訪問企画が生まれ、日本原水協代表やビキニ被災船乗組員の賠償訴訟原告団代表が被災地を訪問しました。3月1日、ビキニデー集会で、現地訪問団と集会会場をネットで結び、現地の様子がリアルタイムで伝えられました。ビキニ水爆実験の最大の被害者はマーシャル諸島の住民の皆さんです。島々からの避難をいまだに余儀なくされ、アメリカの援助、支援も乏しいまま、今も多くの人々が健康障害に苦しんでいます。ビキニ事件の解決には、日本の漁船乗組員の救済とともに、マーシャル諸島の人々の救援、救済が求められていることを強く訴える企画となりました。

3・1ビキニデー集会の会場となった静岡市民文化会館ホールには今回、70年前の原水禁署名の現物の一部が展示されました。これは当時全国に燎原の火のように広がった署名の一部が70年後の今日も残され、保管されていたものです。



当時の熱気を静かに伝えるものでした。展示された署名簿は都道府県別に閉じられていて、京都ゆかりの署名簿をさがすと2冊ありました。1冊は取り扱い責任者「本多譲（京都市）」と表示されたもの、もう1冊は「国民救援会京都府本部」と表示されたものでした。見ることができるのは表書き表示名のみで、署名の中身まではみることができなかったのですが、見てみたい強い衝動にかられました。

今回のビキニデーは、日本原水協の提唱する「非核日本キャンペーン」のスタートラインに位置付けられました。来年の被爆80年に向けて、核廃絶運動を抜本的に強化していこう、その出発点ということです。それに相応しい、全国各地のとりくみや、組織・団体の活動が多彩に、紹介さ



れました。特に、高齢化の進む被爆者のみなさんの状態、被爆者のみなさんの被爆体験の継承のとりくみを考慮すると、時間が限られている厳しい現実があります。そのことを踏まえたとりくみが強く求められており、全国の経験が報告されました。

今回、京都からの現地集会参加者は15人でした。そのうち京都「被爆二世・三世の会」から4人（井坂博文、庄田政江、米重俊夫、平信行）が参加しました。ビキニデー集会で学んだこと、経験したことをこれからの「二世・三世の会」の活動にしっかり生かしていきたいと思えます。

## ■ビキニデーの成果を京都で活かす

### 井坂博文（北区）

3月1日、ビキニデー2日目。ホテルを出て電車で焼津まで移動、久保山愛吉さんが眠る弘徳院まで駅前をスタートして一時間ほど献花墓前行進。焼津港を横に見ながら歩きます。

弘徳院に着いて、宗平協主催による墓前祭をし

ながら久保山さんのお墓に献花して合掌。ここで京都宗平協の出口さんと出会い、会員である鈴木君代さん作詞作曲の歌を印刷したクリアシートをゲット。

静岡市に戻り、昼食を食べて、ビキニデー集会

に参加。あらためて被災70年の闘いの歴史を振り返って、水爆実験したアメリカと賠償金で責任追及を放棄した日本政府の責任が明らかになった。

今回のビキニデー集会では来年の広島・長崎被爆80年に向けた「日本政府に核兵器禁止条約への参加を求めるキャンペーン署名運動」がよびかけられた。

また福島原発事故、能登半島大地震による志賀原発の実態から「核兵器も原発もない日本」を求める運動をさらに広げていくことも確認された。

そして、ロシアやイスラエルが核兵器を威嚇の道具として使うことを厳しく糾弾した。

ビキニデーの成果を京都で活かしていくために頑張ります。



## ■初めてビキニデー集会に参加して

今回3.1ビキニデーに初めて参加しました。一日目に行われた全体会では核禁止条約の現状や国際情勢がよくわかりました。またその後に参加した分科会では、過去に制作されたドキュメンタリー映画などの映像作品を見た後に参加者同士や会場内で意見交換をする構成でしたので、大会参加が初めての人や運動に関わりだして間もない人でも参加しやすいだろうなと感じました。

翌日の3月1日に行われた久保山愛吉さん墓前祭に参加するために焼津駅前から墓参行進に

### 米重俊夫（北区）

参加しましたが行進中には、沿道住民や通行人の中にあいさつされる方や手を振ってくれる方を見かけたのは印象深かったです。特に沿道でわざわざ家の外に出てあいさつされる方が居られるのには驚きました。

原水禁大会ほどの規模ではなかったですが、そこへつながる出発点として重要な大会であることを参加してみて感じました。

## ■次の世代に遺していくビキニ事件

今年はビキニ被災70周年ということで、私は初参加することにしました。

2月29日、京都の皆さんと静岡まで移動し、富士山を横目に会場入りし、日本原水協全国集会では基調報告・海外からの発言を聞きました。

その後、分科会は「ビキニ事件と原水爆禁止運動（入門編）」に参加しました。100名以上の参加者があり、「第五福竜丸展示館」の学芸員市田氏から詳しい説明を聞き、原水協で長年活動を支えて来られた高草木氏から原水爆禁止署名運動の歴史をお聞きすることが出来ました。

最後に被爆二世からの発言を求められたので、二世として広島の被爆体験伝承活動をしていて、ビキニ事件にも触れているので良い学びになり

### 庄田政江（大阪市平野区）

ました、と話しました。

3月1日は駅前でバラを一輪買い、京都の参加者と焼津港～弘徳院まで行進。1組のご夫婦が自宅前で頭を下げて迎えて下さるのを見て感動しました。

久保山さんの遺影が飾られ、読経と各代表者の声明が読み上げられる中、私たちは長い行列を待って、久保山さんのお墓で手を合わせました。頭上には「原水爆の犠牲者はわたしで最後にしてほしい」の文字が掲げてありました。

静岡市に戻りビキニデー集会に参加し、マーシャル諸島住民そして延べ1000隻にも及ぶ日本の漁船乗組員達が被曝した事実を記憶し、次の世代に教訓として残していかなければと思いました。

# 映画『オッペンハイマー』に見る加害と被害

宮本ゆき（シカゴ）



米国で2023年7月に公開されたクリストファー・ノーラン監督の「オッペンハイマー」は、アカデミー賞最多7部門で受賞しただけでなく3億2500万ドルの興行収入を上げています。3時間という上映時間、また主題が原爆開発を率いた物理学者であったことを考えると、色々と記録的な映画と言えるでしょう。実は、この映画は、封切り前から話題になっていました。一つには、コロナが収束した、ということで、映画館でマスクなしで映画を楽しめる初めての夏を迎える開放感。その夏の大作として、この「オッペンハイマー」と「バービー」が期せずして、同日公開されることがわかった高揚感がありました。そのため、どちらを見るか、といった映画好きの人たちの間で、「オッペンハイマー」と「バービー」とを掛け合わせた「バーベンハイマー」という造語ができ、「バーベンハイマー」の名を冠したTシャツやコーヒーマグが売られるなど、商品化さえされていきました。



そんな中、記憶に新しいのは、バーベンハイマーのミームです。オッペンハイマーとバービーの写真を合成してSNSにあげる動きです。特に下の二つは、バービーの公式アカウントがコメントを残したことで、「お墨付き」の印象を与え、日本では炎上したと聞いています。一つは、

バービーがオッペンハイマーの肩に乗っている、その後ろで原爆と思われる爆弾が爆発しているイメージ。これに公式アカウントは「忘れられない夏になる」とのコメントをつけました。もう一つは、バービーの髪の毛がきのご雲と思われる煙でできているもの。コメントは「髪の毛のスタイリングをしたのはケン」というものでした。



映画をきっかけに、若い人たちをはじめ多くのアメリカ人が原爆について、思いを馳せてくれるのではないかと、思った期待は、私自身の発信力の無さもあり、次第に裏切られていきます。というのも、秋になり学校が始まると、アメリカの多くの高校の結束を高める日のテーマとして「バーベンハイマー」が選ばれ、生徒たちがオッペンハイマーやバービーの格好をして登校してきた様子がX（旧ツイッター）に流れてきました。もちろん、ミームに見られるような過激なものはありませんでしたが、オッペンハイマーという人物がどのようにアメリカ社会で解釈されているか—それにはこの映画が大きな役割を果たしたと思います—but、よくわかる事例だと思います。

映画の中では、原爆製造は「大量破壊兵器」そして「大量虐殺兵器」と称されています。そうしたプロジェクトを牽引した人の伝記が書かれ、映画が作られ、高校生たちがコスプレをする。また、それにちなんだ商品が作られ消費されていく。こうした現象は、他の大量虐殺ではありえないのではないのでしょうか。なぜ、原爆、核兵器だけが例

外なのか。なぜ、原爆や核兵器は、さらに言えば被ばくは（アメリカのコミックヒーローに見られるように）エンタメとして娯楽の対象になってしまうのか。これは、私がずっと考えている問題です。

もちろん映画をきっかけに有益な動きもあります。その一つが日本でも紹介された著名な俳優が署名した“核を過去のものに”、という公開書簡です。ここには1万3千発の核兵器が未だ地球上にあることに触れ、このキャンペーンのポスターがアカデミー賞に合わせてロス市内に千枚貼られました。しかしながら、このキャンペーンの発起人であるアーネスト・モニスはオバマ時代のエネルギー庁長官でしたが、原発推進派でした。原発は核兵器の製造・維持に欠かせない、という立場だったのです。現在の立ち位置は不明ですが、「被ばく」についての懸念がこのキャンペーンにはあるのか、すでにアメリカだけで1,032回も行われた実験のことを考えると、このキャンペーンの趣旨は何なのだろう、と疑ってしまいます。



この映画の後、多くの人から意見を聞かれました。「映画はオープンハイマーの伝記だから、被ばく者を描く必要はない」というものもその一つです。私としては、映画の元になった「アメリカン・プロメテウス」という本の題名をもっと掘り下げてほしかったと思っています。プロメテウスはギリシャ神話に出てきますが、火をもたらした者であり、そのために半永久的に拷問を受けます。これをオープンハイマー個人と捉えるのではなく、核を持つことは自国にも半永久的な破壊をもたらす、ととれば、映画は核の本質に沿い、また

核抑止論の矛盾を突いたものになり得たのではないのでしょうか。しかし、映画の題名が「オープンハイマー」になった時点で、その意義は失われたと思っています。

オープンハイマーは水爆に反対したことが美談のようになっていますが、彼は900回に上るネバダでの核実験には反対していませんし、戦略的に原爆を使うことを模索していました。もちろん、核兵器を制御することは大事だと思っていたので、彼が、終末時計で知られる原子力科学者会報の立ち上げに寄与したことは事実です。しかし、後悔して廃絶を目指していた他の科学者とは一線を画していました。

また、「オープンハイマーも苦悩したんだ」という意見もありました。しかし、被害者の苦悩よりも加害者の苦悩を優先する描写というものについては疑問を抱かざるを得ません。もちろん、加害者の苦悩を軽視して良いわけではありません。日本でも第二次世界大戦で加害者としてのトラウマを抱えた男性が家族に暴力をふるい、世代間のトラウマとして継承されるケースもあります。これは大事なテーマですが、それだけのトラウマを起こした被害とはどんなものだったのか知らないで、兵士であった男性の加害の苦悩を知るだけでは、加害の理解さえ浅薄なものにならざるを得ないでしょう。やはり被害を知ることで、加害の苦悩の理解も深まるのだと思います。また、加害者がこれだけ苦しむから原爆は、核兵器は、戦争はダメだ、と言うのは本末転倒でしょう。

オープンハイマーという加害者の苦悩についてももう少し触れるとレッドページと反ユダヤ主義で抑圧を受けていたオープンハイマーに人間性を与えることも大事です。しかし、広島と長崎の犠牲者には、日本支配下での留学生、朝鮮半島出身者、反体制派、オランダ領インドネシア、イギリス、オーストラリア、アメリカの捕虜など様々な形で抑圧・差別を受けていた人たちが含まれます。さらに、アラモゴードでの核実験にはベルギー領コンゴ、カナダ、アメリカ西部のウラン鉱山労働者、核実験場から半径50マイル以内に

住む13,000人のニューメキシコの風下住人、爆心地から37マイル離れた場所でキャンプをしていた10人の少女たち（一人を除き全員30歳になる前に亡くなっています）なども含まれます。彼らの苦しみはいつになったら注目され、医療を受けられるようになるのでしょうか、そしてこの映画がオッペンハイマーに人間性を与えたように、彼らはいつ人間性を与えられるのでしょうか。



広島に被ばく者である中沢啓治は、自身や他の人々の原爆体験を、『はだしのゲン』に描きました。英語で読める本書では、日本の軍事政権の暴力性、朝鮮からの植民地支配の抑圧、食料や衣服など、人々が日常生活に必要なほとんどすべての物資の不足について描いています。彼はまた、原爆投下の恐ろしさ、つまり、見分けがつかないほど焼け焦げた遺体、川に浮かぶ腐敗して腫れ上がった遺体、街に充満した悪臭についても語っています。さらに原爆投下後の長期にわたる余波、孤児が溢れ、ヤクザが彼らを受け入れる唯一の受け皿となっており、彼らが駒として利用された、アメリカでの被ばく証言ではあまり出てこない悲惨な状況にも触れています。放射線障害で苦しみ、そのために職につけず貧困に苛まれたまま亡く



なった人もいれば、放射能に「汚染された」という理由で、他人から敬遠され、差

別された人もいました。こうした苦悩は一切オッペンハイマーからは学べません。

もちろん被害者と加害者がいつも綺麗に分かれるわけではありません。戦闘においても、ある一場面では被害者であった人が加害者になる場面、特に極限状態ではそうならざるを得ない場面もあるかと思えます。それはイタリアの哲学者のジョルジョ・アガンベンがアウシュヴィッツについて書いた言葉を借りれば、ニーチェの「善悪の彼岸」ならぬ「善悪の手前」「善悪以前」ということになるのかもしれませんが、それは、原爆でかろうじて生き残った人たちが、助けを欲する人たちを置き去りにした、などの状態を指します。しかし、ここでも大事なはその文脈です。マンハッタン計画は、そのような「生死」を二分する極限状態を科学者に突き付けたのでしょうか。大変難しい決断だったでしょうが途中で計画を抜けていった科学者たちもいるのです。もし、科学者たちが、この仕事がなければ一家全員路頭に迷い一家心中しかない、と言った極限状態であったなら「善悪以前」に近い状況と言えるでしょうが、オッペンハイマーがそうした状況だったとは考えにくいのです。

2015年のピューリサーチでは、若い人の多くが原爆は良くない、という意見でしたが、それでも「バーベンハイマー」が広く流布したことを鑑みると、彼らの原爆観はどういったものなのか戸惑います。そういう意味では、アメリカにおける被ばくの描き方は変わっていないのだ、ということがよくわかる映画になっているとも言えます。

学生の中には、未だに原爆投下は真珠湾攻撃に対する報復だったという者もいます。しかし、マンハッタン計画は1941年の夏には構想されており、予算は真珠湾攻撃の前日に議会を通過していました。またナチスへのウラン供給を阻害するため、アメリカは早くから良質のウラン産出で知られるベルギー領コンゴのウランルートを独占・確保していました。公式にはアメリカがナチスの原爆製造断念を知ったのは1944年と言

われていますが、ナチスが1942年に原爆開発を断念したのは、コンゴのウランのような良質なウランが手に入らないため、それはアメリカの思惑通りだったのです。にもかかわらず、ロスアラモス研究所は1943年に近隣のプエブロ系の部族の土地の上に建設・稼働されました。

私たちは長い間、白人男性中心の目線の物語、あるいはその目線で社会を見てきました。実際に社会ではアジア系に対するヘイトクライムがあっても、特に東アジア系の人たちは（自戒を含めています！）自分達を白人と同化しがち、という批判はずっとありました。（例えばウエスタン映画で、先住民ではなく白人保安官に自らを同化するといったような。）しかし、近年は、いろいろな目線の物語がどんどん作られ、Netflixなどの主流なストリームサービスで出てきています。そんな中、なぜここでエリート白人男性（つまり数多の選択肢があった人）が苦悩する

話が出てきて、それがこれほど社会に受け入れられるのか。これは、アメリカ社会における、いろいろな目線の物語に対する揺り戻しなのか、色々と考えさせられます。

批判ばかり書きましたが、この映画を見ることは、アメリカの変わらない核言説を知り、これからの活動を戦略的に捉えるために、とても重要です。その一つとして「核が我々を守ってくれた」とする核抑止論を支えている言説を覆すことが大事だと思っています。核抑止論の国の枠組みを逆手にとって、アメリカ国内（あるいは核保有国内）の被ばく者に焦点を当てること、そしてその上で国の枠組みを超えて、多くの「グローバルヒバクシャ」と繋がることで、核抑止論の前提である国民国家の繋がりとは違うモデルを提示することが、オッペンハイマーに対抗する語りになるのではないかと考えています。

映画『オッペンハイマー』は3月29日(金)TOHO シネマズ二条で公開予定です。

## 2024年度年会費お支払いのお願い

京都「被爆二世・三世の会」の会計年度は4月1日～3月31日です。

2024年度年会費のお支払いをお願いします。年会費は2,000円です。

- 振込でお支払いいただく場合は以下をお願いします。  
郵便振替 記号01070-6 番号47870  
加入者名 京都原水爆被災者懇談会  
通信欄に「二世・三世の会」会費とご記入下さい。
- 京都銀行四条支店 店番111 □座番号447963  
□座名 京都原水爆被災者懇談会 振込いただいたらご一報ください。
- 5月12日年次総会の場でも受領いたします。
- 複数年のお支払いもしていただけます。
- 年会費とは別に活動援助金（カンパ）のご協力もお願いしています。



## 会員から会員へ ● みなさんからのお便り紹介

他地域の2世・3世の方からいただいたお便りも紹介いたします。

### ■「被爆二世は本人が被ばくしたわけではない」の一言に怒り

池村奈津子（伏見区）

いつも会報を送っていただきありがとうございます。様々な行動に頭が下がります。

「被爆二世は本人が被ばくしたわけではない。」という厚生省の回答には唾然としました。一言で片づけられてしまうとは！ これを言ってしまったら、救いようがないです。様々な症状で苦しんでいても、その一言なのですか。

福島からの避難者が、私は子どもを産まないと言ったのを思い出します。若者が不安を抱えているのは、放射能という見えないものへの不安。

甲状腺がんの手術をした若者が、体内で何が起きているか、今後何が起こるか不安に思っているのに、もし、出産し子どもの体調が悪いとしても、それを「本人が被ばくしたわけではない」と一言で片づけられるとすれば、これでは救われません。

企業が問題を起こした場合は、企業に責任をとらせるのに、国が絡むと認めないのは、原発賠償訴訟とおなじですね。

### ■桂川中学で被爆体験の語り部

平 信行（南区）

3月8日（金）、被爆者の三山正弘さんと一緒に、西京区の市立桂川中学に赴き、被爆体験の語り部・平和学習講演会に参加してきました。中学3年生の5月に広島を含む修学旅行が予定されており、その事前学習のため被爆者のお話を聞いておこう、という企画です。聴講の生徒は現2年生の182人、約50分間の学習会でした。胎内被爆者の三山さんが、お母さんが長崎市内で被爆した時の様子を語り、合わせて原爆のこと、被爆者のことを丁寧に説明していきました。

生徒さんたちの聞く姿勢もきちんとしており、最後まで集中して聞き入っていました。お話し終

了後、短い時間ながらも質問の手が次々あがり、3人ほど応答することができました。生徒さんたちの感想文は後日送っていただくことになっています。



11月の府立洛東高校といい、今回の桂川中学といい、貴重な企画、大切な取り組みだと思えます。しかし、京都府内には中学校が約200校、高校が70校とされています。そのことを思うと、私たちのとりくみはまだまだ限られたものでしかありません。これからは、私たちの側から各学校に対して積極的に企画の提案をしていくことが必要なのではないかと思えます。それに耐えられるだけの被爆の体験を伝えきれる水準、力量も高めていく必要があります。

### ■71歳になりました！

西村八郎（南区）

皆さん誕生日のメッセージ有り難う御座いました。71歳と成り気管支炎喘息や高血圧や酷い耳鳴りに悩まされながらも生きて居る喜びを感じて居ます。障害者のガイドヘルパー等しながらもう少しの間現役で居たいと願って居ます。日本の平和を守る8マンとして頑張ります。



## 本・DVD・映画・番組・その他の紹介と交流

### ■東京電力の変節—最高裁・司法エリートとの癒着と原発被災者攻撃 著：後藤秀典

紹介 石角敏明（長岡京市）



旬報社 1,650円(税込)

怒りっぽい人は、決して読まないでください。「福島第一原発事故から〇〇年」と言われるが、被害を放置したまま、被災者は忘れられようとしているのか。

先月紹介した「樋口さんの著書」の中でも、すこし触れておられる本で、10日過ぎの「赤旗」にも著者が登場されています。

「ADRの和解勧告を尊重する」あるいは「心から謝罪します」と言いながら、突然「被災者」攻撃をはじめた東京電力、その攻撃を支える大手弁護士事務所。その弁護士事務所が最高裁と深く結びついていることを、事実を持って摘発している。「何故、東京電力は突然、避難者を攻撃」し始めたのか、そこには相次ぐ裁判での敗訴と、賠償金のアップが背景にあるという。「なぜ、裁判に訴えなければならないのか」という避難者の思いには一顧だにしない東京電力の姿勢がある。そして被曝者の中に「分断」を持ち込んだ政府。そして東京電力が法廷の場で避難者を公然と攻撃できるのもこの「分断」があるからと指摘されている。「避難者」も国民から「批判」をされる現代の日本社会。これは、生活保護受給者へのパッシングと似ていると指摘する。

そして、最高裁も含め、司法は「国の責任」を一切認めない。そこには、大手弁護士事務所と退官後の判事のつながりがある、と暴かれている。これでは、どこまでいっても司法の場で、国が裁かれることはないと思ってしまう。

しかし、裁判に期待が持てないかといえ、必ずしもそうとは言い切れない。「裁判官が一番気にするのは世論だ」と樋口英明氏は言われる。今後の私たちの運動の盛り上がりによって、判決内容は変わってくる可能性は大である。原発事故とその被害の問題を風化させず、長く向き合い続ける必要があると思う。決して原発事故の被災者だけの問題ではないという視点を持ちながら。




 Scrap  
book

## ■世界遺産に値する原水爆禁止署名

ウクライナやパレスチナ・ガザ地区で戦争と核兵器使用の威嚇が繰り返され、他の核大国も軍事ブロックの強化と軍拡の対応がつづいています。一方、世界の世論はいま、国際紛争における武力行使・威嚇を禁止し、平和的解決を義務付けた国連憲章のルール遵守と人類滅亡に通じる残虐兵器＝核兵器の廃絶へ、核兵器禁止条約の発効と大きく動いています。

これらの発展の源流は、1954年「ビキニ事件」の無法な核実験被害に抗議して3200万人を超える人びとが署名し、全自治体が決議をあげた「原水爆禁止」を求める国民的運動です。

日本原水協は第96回全国理事会で「非核日本キャンペーン」を被災70年の3月1日から開始することを決定しました。合言葉は「『ビキニ署名』のように」です。3・1ビキニデー集会の会場（静岡市民文化会館大ホール・ホワイエ）で1954年～55年当時の署名を一部展示します。多くの署名が自治体単位、町内会単位で綴られています。貴重な歴史的資料を直接ご覧ください。

日本原水協は2月14日、保管していた1955年当時の原水爆禁止署名を整理しました。その様子を写真に収めた写真家の森住卓さんのコメントです。

今年はビキニ事件70年。太平洋ビキニ環礁でアメリカがおこなった水爆実験で操業中だった日本の漁船1000隻前後が被爆した。

ビキニ環礁の東160キロで操業中の第五福竜丸の無線長だった久保山愛吉さんは半年後に亡くなった。

この事件を契機に燎原の火のように広がった原水爆禁止の署名。

その署名簿が都内近郊の倉庫に保管されていた。

その署名簿の保存の作業がはじまった。

2021年発効した核兵器禁止条約。広島、長崎の被爆者が生涯をかけて願った核兵器禁止の国際条約だ。被爆者のその願いを支えつづけた草の根からの署名運動。段ボール箱から取り出された全国から寄せられた署名簿。

終戦直後の物不足のなかで粗悪なわら半紙にガリ版刷りの呼び掛け文と署名簿。どれも乱暴に扱えばボロボロとやぶれてしまう。

一筆一筆に込められた原水爆禁止平和への願いが行間から読み止められる。

第2次世界大戦後、核保有国の核使用の衝動を抑え、彼らの手を縛ってきた証がここにある。

私は世界遺産となった広島原爆ドームと同じように、これらの署名簿も平和を願い核戦争を止めさせている大事な証として世界遺産の登録に値するものと確信する。



原水爆禁止署名簿（左、右上）、撮影する森住さん（右下）

「唯一の戦争被爆国 日本政府に核兵器禁止条約の署名・批准を求める署名」共同よびかけ人／写真家 森住卓さん

（2024年3月6日 原水協通信）

## ■核禁条約 補償への基盤 ビキニ水爆被災70年 米南部で会議

米南部アーカンソー州北西部のスプリングデールで2月29日、世界各地の核実験被害を学び、核兵器廃絶の展望を議論する会議が3日間の日程で始まりました。

米国が1954年に太平洋マーシャル諸島ビキニ環礁で行った水爆実験から70年にあたって開催。米国にあるマーシャル諸島の若者の団体「マーシャル教育イニシアチブ」(MEI)が主催しました。核実験被害の補償を求めて闘う人たちや、核兵器禁止条約を推進してきたNGOの代表らが参加しています。

スプリングデールにあるマーシャル諸島総領事館のキャロリナ・ターヴウィリン氏は「マーシャル諸島は大海の小さな国だが洪水や干ばつ、核実験の影響のなかでも生き延びてきた」と強調。気候危機や住民の疾病などの困難を乗り越えるために「若い人たちの力の強化が必要だ」と参加者を激励しました。

カザフスタン「フェミニスト外交センター」のアイゲリム・シチェノバ氏がビデオメッセージで旧ソ連による核実験被害を報告。核保有国は核実験場として先住民居住区を選ぶなど「核の植民地主義を実践している」と批判しました。

「核兵器禁止条約は加害国に代償を払わせる重要な基盤になる」と語り、条約を力に核廃絶と被害者補償の運動を広がることを呼び掛けました。

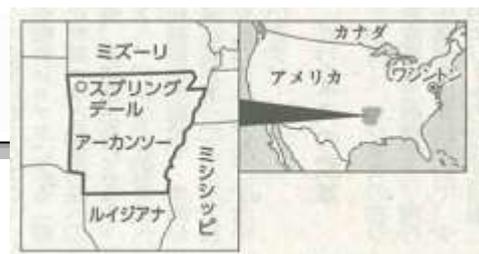
国際NGO「核兵器廃絶国際キャンペーン」(ICAN)のセス・シェルダン氏は、核兵器禁止条約の参加国の広がりについて報告しました。

スプリングデールには1万2000人以上のマーシャル諸島の人々が住みます。186年に米国とマーシャル諸島が結んだ自由連合協定で米国へのビザなし移動が可能になって以降、就職や就学、治療などのため多くの人々がマーシャル諸島から移住しました。

(2024年3月2日 しんぶん赤旗)



会議で発言するマーシャル諸島総領事館のキャロリナ・ターヴウィリン氏＝2月29日、米南部アーカンソー州スプリングデール(島田峰隆撮影)



## ■国連安全保障理事会 外相、核禁条約に触れず

上川陽子外相は18日午前(日本時間同日午後)、「核軍縮・不拡散」をテーマにした国連安全保障理事会の閣僚級会合に議長として出席した。

上川陽子外相は核兵器禁止条約に触れなかった。対照的に条約を批准するマルタやエクアドルは意義を強調。核兵器保有国と非保有国の議論を促す役割を果たし切れなかった。

「禁止条約の加盟拡大に取り組む」。マルタの代表は演説でこう宣言した。エクアドルとシエラレオネも全ての国の加盟を求めた。いずれも日本政府が説く核拡散防止条約(NPT)の重要性を認め

た上で、禁止条約はNPTを補完する存在だと説いた。



一方、上川氏は「核なき世界の実現に向けた基盤がNPTだ」と唱え、禁止条約への言及は避けた。条約と距離を置く米国を重視した格好で、会合後は「条約には核保有国が一カ国も参加していない」と従来の見解を繰り返した。

政府が狙った「保有国を巻き込んだ議論」（首相周辺）も深まったとは言い難い。会合では米国と中国、ロシアとの間の溝が目立った。

米国は中ロを名指しし、「兵器を規制する2国間協議に今すぐ無条件で応じる」と呼びかけた。しかし中国は「米国が率先して核兵器を減らし、他の保有国が核軍縮に取り組める環境をつくるべきだ」と反発。ロシアも「米国と北大西洋条約機構（NATO）がロシアへの敵対的姿勢を見直さない限り対話はできない」と拒絶した。

中ロは上川氏が新設を表明したFMCTのフレンズ会合に加わる気配もない。会合への参加を表明した米国とは対照的で、保有国間の連携は進まず日米の協調ぶりが際立った。（宮野史康）

### 緊急性欠く外相演説 本質に迫っていない

核兵器廃絶国際キャンペーンICAN（アイキャン）の川崎哲（あきら）国際運営委員の話 上川外相の演説は、核兵器を減らし、なくすために保有国とどう向き合うかという緊急性に欠けていた。核軍縮を主題にした会合の開催自体は評価できるが、問題の本質に迫ったとは言えない。核兵器禁止条約に一言も触れなかった点も国際社会の潮流を踏まえれば不自然だ。

米国やロシアは核兵器を持つ弁明を重ね、対立国を非難するばかり。核抑止も肯定し、「核なき世界」を目指す姿勢は希薄だった。国連のグテレス事務総長は核軍縮こそ保有国の「責任」だと強調したが、当事者からは全く感じられなかった。（2024年3月20日 中国新聞）

## 編集 後記

### ▼映画『放射線を浴びたX年後Ⅲ・

SilentFallout』を観て、映画全体は素晴らしい作品で、ぜひ自主上映運動が大成功することを願いましたが、一つ疑問に思

ったことがありました。それは映画の中で放射線被ばく被害を告発する人々がみんな白人だったことです。核被害は白人だけなのか、黒人は、ネイティブ・アメリカン（先住民族）には被害者はいないのか？という素朴な疑問です。そんなはずはない、3年前の守田敏也さんのニューメキシコ

州訪問のレポートではネイティブ・アメリカンの被害者との交流が中心だったではないか。昨年刊行され、紹介された著書『黙殺された被曝者の声』（トリシャ・T・プリティキン著）でも、そこに登場する被ばく被害者は全員白人でした。何故なのか？その真意は著者や映画製作者に聞く以外にはないのですが、アメリカの核被害の実態に迫ろうとする時、避けては通れない複雑で重構造的な問題を認識することが必要ではないかと思えます。このことをオープンハイマーはどう描くのか？（平）

## 2024年4月(卯月・うづき)行事カレンダー

月	日	曜	行 事	
4	1	月		
	2	火		
	3	水		
	4	木		
	5	金		キンカン行動
	6	土	6・9行動	
	7	日		
	8	月		
	9	火	6・9行動	
	10	水		
	11	木		
	12	金		キンカン行動
	13	土		
	14	日		
	15	月		
	16	火	衆院東京15区・島根1区・長崎3区補欠選挙告示	
	17	水		
	18	木	京都「被爆二世・三世の会」例会(18:30ラポール京都)	
	19	金	安保法制廃止をめざす19日行動(18:30市役所前)	キンカン行動
	20	土	京都原水爆被災者懇談会2024年度総会(11時・ラポール京都)	
	21	日		
	22	月		
	23	火		
	24	水		
	25	木		
	26	金	チェルノブイリ原発事故(1986年)	キンカン行動
	27	土		
	28	日	沖縄デー 衆院東京15区・島根1区・長崎3区補欠選挙投開票 サンフランシスコ講和条約発効(1952年)	
	29	月	昭和の日	
	30	火	ベトナム戦争終結(1975年)	